

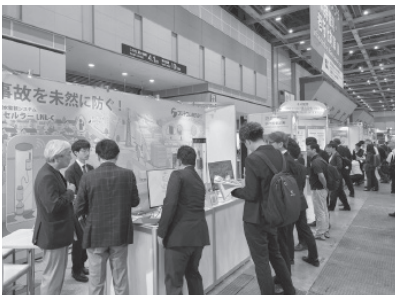
漏水事故の未然防止へ

フジコム AIで見逃し最小限に

フジコムは5月13日～15日、東京ビッグサイトで開催された「自治体・公共Week2026」

の「第4回自治体インフラ維持管理・老朽化対策展」に出展。「リークネットセルラー LNL-C」をメイン展示したほか、開発中の次期モデルのコンセプトなども紹介した。

「リークネットセルラー LNL-C」は、事故リスクの高い水道管路に高感度センサを設置し日々監視することで、



点検頻度があがり、またシステムが漏水の兆候を早期に捉えることで迅速に現場対応が可能となる。AI判定による高精度な漏水判定が見逃しを最小限に抑えるほか、分離型構成とマルチキャリア対応で通信の安定性を確保する。データ欠損を防ぐ設計により、長期運用でも高い信頼性を維持している。昨年度末には、東京都が社会課題解決に資する先端技術を活用したソリューションを表彰・普及等支援する「Tokyo Social Innovation Award 2025」で、優秀賞を受賞した。

次期モデルの開発コンセプトなども紹介

は、「リーク

ネットセルラー LNL-C」の監視事例として、災害発生時の早期検知や復元漏水の監視、長距離検知、中大口径管路の異常検知、交通量の多い国道沿いの管路監視、音聴調査が困難な場所での長期監視、AI劣化診断からの管路監視、漏水多発エリアでの管路監視などを紹介した。ブース内では、従来の判定方法にAI判別モデルを融合したハイブリッド判定を採用していること、空振り調査の低減や見逃しの回避、維持管理業務における作業負担の軽減などについて質問する来場者の姿も見られた。

また、来年以降にサービス開始を予定している次期モデルについては、「漏水事故の未然防止を、より確実なものへ」という開発コンセプトを説明したほか、「音源の識別を可能にする」AI（深層学習モデル）による漏水判定（特許取得済）なども紹介した。